

卒業生に贈ることば ～塩荊裕之校長から～

堂々と胸を張り、力強く、素晴らしい人生を！

2月27日（月）、卒業式を目前に控えた卒業生に向けて、塩荊裕之校長が講話をおこないました。

塩荊校長は「迷ったときは前に出る！ やらなければ何も残らない」という、星野仙一・元野球監督のことばを引用したあと、「一生懸命」ということばをまず挙げました。

「一生懸命やれば人の心を打つ、人を感動させることができる」と、何かに全力で打ち込む大切さをまず強調しました。また「本気になれば大抵のことができる、何でもおもしろい、誰か助けてくれる」と、真剣に取り組むことが重要であると述べました。さらに人間の心のありようにも触れ、「叱られたとき、三流の人間はむっとする、二流の人間は下を向く、しかし一流の人間はありがとうと言える」と、常日頃の心の持ち方が人間の価値を決めると、話しました。

そして、「五つの心」として、素直な心、反省の心、謙虚な心、奉仕の心、感謝の心を挙げて、それぞれの心の持つ意味を述べました。

最後に「人として、堂々と胸を張り、力強く、素晴らしい人生を！」と卒業生を激励し、はなむけのことばとしました。

卒業後は、就職に進学にとそれぞれの道が分かれています。生きていくうえで大切なことを、どの生徒も胸に刻みました。

いよいよ3月1日が卒業式です。すべての生徒が悔いのない人生を歩んでいってくれることを祈ります。

